授業科目名・形態	老年看護方法論Ⅱ（疾患別実践）・演習	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	渡邉知子・飛澤貴子・工藤智美	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	N6-2008npmht				

【【授業の主題】

老年期特有の健康問題の特徴を理解し、高齢者の自立支援に向けた看護の方法について学びを深める。また、人生の最終段階にあり、多様な背景をもつ高齢者とその家族を尊重した看護援助について理解を深める学習とする。

【到達目標】

１．老年期に特有の健康障害の特徴を理解し、健康障害をもつ高齢者とその家族の看護援助について説明できる。
２．人生の最終段階にある高齢者の尊厳ある看護援助について説明できる。
３．高齢者の健康増進のための活動と援助の実際を理解できる。
４．地域の多様な生活・療養の場における高齢者とその家族への看護援助と多職種連携の意義を説明できる。

【授業計画・内容】

第１回	高齢者の生活を支える制度と施策	（　工藤　）
第２回	褥瘡のアセスメントと看護	（　飛澤　）
第３回	高齢者の皮膚障害とスキンｰテア	（　飛澤　）
第４回	認知機能障害のある高齢者の看護①（うつ・せん妄）	（　工藤　）
第５回	認知機能障害のある高齢者の看護②（認知症の分類・症状、治療）	（　工藤　）
第６回	認知機能障害のある高齢者の看護③（認知機能の評価と看護）	（　工藤　）
第７回	治療を必要とする高齢者の看護①（検査・薬物療法）	（　渡邉　）
第８回	治療を必要とする高齢者の看護②（手術療法）	（　渡邉　）
第９回	高齢者の疾患の特徴（パーキンソン病・骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折）	（　渡邉　）
第10回	高齢者の感染と看護	（　渡邉　）
第11回	高齢者のエンドオブライフケアと意思決定支援，まとめ	（　渡邉　）
第12回	生活・療養の場における看護①	（　工藤　）
第13回	生活・療養の場における看護②（ゲストスピーカー）	（　工藤　）
第14回	老年期にある人の看護過程の展開①	（　工藤　）
第15回	老年期にある人の看護過程の展開②	（　工藤　）

【授業実施方法】

基本は講義形式で行います。第６回はグループディスカッションによる主体的学修、各回の講義時にはリアクションペーパー等による学びの振り返りを行います。

【事前・事後学習】

講義内容に関する自主学習（事前学習・復習）を計 15 時間以上行うこと。

【主な関連する科目】「老年看護学概論」「老年看護学方法論Ⅰ」「エイジング論」「病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「リハビリテーションと看護」「老年看護学福祉実習」

【教科書等】

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　第９版，医学書院，2022
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　第５版，医学書院，2022

【参考文献】

ナーシング・グラフィカ：老年看護学①「高齢者の健康と障害」第８版，メディカ出版，2025
ナーシング・グラフィカ：老年看護学②「高齢者看護の実践」第７版，メディカ出版，2025
山田律子／内ヶ島伸也：生活機能から見た老年看護過程，病態・生活機能関連図，第４版，医学書院 ,2020

【成績評価方法】

筆記試験 85%、課題提出 10%、授業態度 5%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院での実務経験と地域（在宅・施設）における高齢者と家族の支援を活かし、多様な場で様々な健康レベルにある高齢者への介入事例を交えながら、学生の関心と理解を高められるように伝えていきたい。

【学生へのメッセージ】

授業は３年次の臨地実習の基盤となるものです。病院はもとより施設や在宅など多様な場にいる高齢者とその家族に心を寄せ、社会の動向や高齢者を支える制度等にも関心をもって授業に臨みましょう。